

# 防災へ備えや体制確認

水田地区  
自主組織  
吉備国大と合宿研修

## 真庭

真庭市水田地区の自主組織と強調し、避難情報に「合わせ取る行動をあらわし、水田むらづくりの会は11、12日、旧水田小体育館（同市宮地）で合宿を伴う防災研修を初めて行った。吉備国際大（高梁市）の協力を得て住民ら約20人が有事の際の備えや体制を確認した。

初日の講習は人間科学部の橋本翠教授が、自身のリスクを過小評価してしまう「正常性バイアス」という心理状態を説明。「災害時にバイアスが生じるこ



災害時の行動を整理した「タイムライン」を発表する住民たち

とや、率先して避難者となるといった対応策を訴えた。

グループワークでは災害時の行動を時系列で整理する「マイタイムライン」を考案。夕食は豚汁の炊き出しや非常食を味わった。自作した段ボールベッドを使って就寝し、2日目は備蓄品の確認や救急法について学んだ。

加藤晃会長(65)は「災害時の新たな知識を身に付けられたので地域で広げていきたい」と話した。

防災研修は同体育館の利活用に向けた取り組みの一環で、同大の研究活動を支援する県の助成事業も受けて開かれた。(小谷章浩)